

「じてんしゃ図書館と私」

平成20年7月19日(土) 14:00~16:00 講義棟4603教室において、「じてんしゃ図書館と私」と題し、じてんしゃ図書館館長 土居一洋(どい かずひろ)氏の講演会が開催されました。岡山県大学図書館員研修会が主催しました。

講師の土居一洋氏は、1978年徳島県の生まれで、現在29歳。全国の図書館を訪問し、『百年の愚行』という本を図書館に置いてもらえるようお願いするという旅を続けています。同時に、水車型の本棚をつけた自転車で、自らも環境問題などの本を貸し出す図書館館長でもあります。

じてんしゃ図書館のはじまりは、平成16年3月、仕事帰りに寄った書店で『百年の愚行』という本と出会ったことからです。当時はサラリーマンをしていました。

『百年の愚行』は、酸性雨によって奇形化した魚、流出した油をかぶったペンギン、エイズに感染している少年……。戦争や環境破壊、差別、迫害など、20世紀に人類が行なった数々の”愚行”を100枚の写真で伝えています。

土居さんは、『百年の愚行』読んで、「地球では何というひどいことが起こっているのか。21世紀もまた同じ世紀にするのか？」と強い衝撃を受け、この本を3冊買い、2冊を友人に「とにかく読んで」と渡しました。近くの図書館に行ってみると、『百年の愚行』は置いていなかったの、この本を置いてほしいと頼み、購入してもらいました。ひと月後、調べてもらおうと、3人の方が借りていました。

土居さんは、そこで決心して、全国の図書館を周ってこの本を置いてもらえるように頼んでみようと思いました。この本をひとりでも多くの人に読んでもらい、「いまの地球がどんな状態にあるか、人類がどこまで来てしまったかを、じっくりと考えてもらいたい。そうすれば少しでもいい方に変わるんじゃないか。」

そして、平成17年1月、30万円をもって自転車で当時住んでいた愛知県の自宅を出発しました。ところが、地域住民でもない人間がいきなりその地の図書館を訪ねて行って、すんなりといくはずもなく、話さえ聞いてもらえない図書館もありました。本のセールスに来たのかと追い返されたりもしました。パトカー2台に出動されたこともあります。悩んだ末に、「自分が図書館になればいいんだ。そうすれば置きたい本を並べることができる」と考えつきました。

最初は、自転車で引張れるベビーカーに、子どもにもわかりやすく書かれた環境問題の本を積んで貸し出ししていました。本は、返してもらう必要はなく、読み終わったら、本の裏に描かれている「木」に「葉っぱ」を1枚描いて、誰かに渡すというやり方です。

旅に出て1年後、仙台で、急な坂道で自転車を押していたら、脇見運転していた自動車に追突され、身体は宙に投げ出され、自転車は大破しました。徳島に帰り、旅を続けるべ

きか、自問しました。そして、やりかけたことを途中でやめたくない、そのためにも新しい素敵なじてんしゃ図書館を造ろうと思い、仙台に戻り、蕎麦屋にあった模型の水車にヒントを得て、図書館で構造を調べたりして、ひとりで水車型の本棚を造りました。総重量は130キロ以上です。この際、水車に合う格好をしようと思い、着物を着て下駄を履くことにしました。

平成19年1月、再び旅にでました。本を仕入れるお金が尽きると、その地で仕事をします。基本は、テント暮らしの野宿。これまで周った図書館は、1970箇所。貸し出した本は、1000冊以上。この後、広島県を周り、山口県に行く予定です。さらに沖縄まで行きたいと思っています。

講演の後、30分以上に及ぶ熱心な質疑応答があり、その最後に、岡田喜篤学長が、「声高に環境問題を論じるでもなく、1冊の本を読んでもらいたいと日本中を回っている土居さんは立派です。旅が終わった後に、自分のやったことの意味や今後のことを考えればよい。」と土居さんにエールを送りました。

その後、土居さんは、本学プラザに展示した「じてんしゃ図書館」の側で、参加者と懇談したり、本を貸し出ししたり、また、記念撮影に応じてくださいました。

土居さんが無事に全国の図書館を回る旅をやり遂げられることをお祈りしています。

=参加者のアンケートより=

- ・ 土居さんの生き方、その語り口、すべてがよかった
- ・ 館長の純粋な部分がみえてよかったです
- ・ 自分の言葉で一生懸命話されていたところがよかったです
- ・ 1冊の本に出会ってから、全国に広めようと決意した行動力がすごいと思いました
- ・ 一生懸命、お話をされていることが伝わり、とても印象深かったです
- ・ 貴重な体験の話をきけた
- ・ 人間性が感じられた
- ・ 旅のきっかけの心境を聞いてよかった。案外普通の人でおどろいた。なぜそこまで行動できるのか

文責 片岡 美佐江 (川崎医療福祉大学附属図書館)